

# 留学を終えて

聖マリア女学院高等学校 宗宮 まどか（カナダ）

## 【ホストファミリーについて】

私のホストファミリーは、両親と兄3人、そのうち2人は結婚していて、5人の子どもがいました。私のホストファミリーはフィリピン系移民で、フィリピン系のコミュニティは広く、大きな家族がいるようでした。彼らは、とても陽気で、パーティーが大好きでした。私は彼らのおかげでホームシックになることもなく、楽しい生活を送ることができました。私のホストマザーはとても料理が上手で、フィリピンの料理をたくさん作ってくれました。本当の母親のように接してくれて、ありがたいなと思いました。

彼らは英語の発音は独特でしたが、とにかく積極的で高いコミュニケーション力をもっていました。私は、彼らの姿を見て、失敗を恐れず自分の思いを伝えることが大切だと思いました。それからというもの、とにかく恥ずかしがらず、いろんな人に話しかけるようになりました。彼らは、私に勇気とやる気を与えてくれました。私はカナダとフィリピン、二つの文化を学ぶことができました。すべての素敵な体験を与えてくれた家族には、ただただ感謝の言葉しかありません。

## 【学校生活について】

ホストスクールである Hamiota Collegiate は、1学年20人ほどの小さな学校でした。学校に行くまで、色々な不安がありました。友達を作ることができるのか、差別はないか、授業についていけるか。楽しみよりも不安のほうが大きかったです。はじめは、なかなか馴染めず、日本の友達が恋しいと思う日が続きました。話の輪に入りたくても、理解できずに少し離れたところでとりあえず笑ってみる、そんなこともたくさんありました。しかし、こちらから積極的に関わることでみんな心を開いてくれて、気の合う友達もできました。少しの勇気を出して話しかけ続けたことで、私は最高の友達を手に入れました。彼らは、私の大きな支えとなってくれました。彼らは私の下手な英語を、上手だといつも褒めてくれました。私は失敗することを恐れず、楽しく英語を話すことができました。それは、彼らがそういう環境を作ってくれたからです。彼らとは、授業中、休み時間、放課後、休日とたくさんの時間を一緒に過ごしました。留学生として特別に扱うのではなく、一人の親友として接してくれた友達たちが大好きです。彼らと別れるのは本当につらかったです。

私は、バドミントン、バレーボール、バスケットボールの部活に参加しました。部活に入ることで、人とのつながりが一気に広がりました。特に、バレーボール部での経験は忘れられないものとなりました。初心者だったので挑戦するかどうかすごく迷ったのですが、後悔したくないと思い挑戦しました。今まで話したことのなかった子とも友達になりました。ある試合で、ベンチメンバーだった私はアタックに挑戦しました。そのアタックで点を取ることはできなかったけど、チームのメンバーはジャンプしながら喜んでくれました。なんて素敵な仲間をもったのだろうと感動しまし

た。できないからと避けるのではなく、挑戦したことのないことにあえて挑戦してみることが大切だと思いました。

授業では、プレゼンテーションを作りみんなの前で話すという機会を何度も与えられました。私は、パソコンの操作が苦手でもとも苦労しました。また、みんなの前で話すには何度も練習する必要がありますが、苦労しました。そんな時、いつも先生やクラスの友達が手を貸してくれました。みんな私の話を真剣に聞いてくれ、何とか乗り越えることができました。難しかった教科は、英語と化学です。英語では、Shakespeare の作品を理解し、自分の意見をエッセイにまとめました。わからないところはすぐに聞き、理解するようにしました。エッセイを完成させるには、たくさんの時間がかかりました。化学では、たくさんの変った難しい単語を暗記しなくてははいけませんでした。私は、声に出して書きながら何度も練習し、毎日時間を見付けて、コツコツ勉強しました。そのおかげで、表彰していただけました。助けてくれた先生方や友人、家族に感謝でいっぱいです。

### 【カナダと日本】

日本では、授業を聞き、暗記し、テストを受けるという流れですが、カナダは違いました。学習したことについて考え、何かを作成したり、話し合ったりしました。たくさんの考え方が尊重されることがとても素敵だと感じました。

日本のアニメが海外で人気なのは知っていたけれど、まさかこんな小さな町でも人気だと思っていませんでした。私の親友は、日本のアニメが大好きです。また、日本料理は人気で、少し離れた Brandon という街には日本食レストランがいくつもありました。私は、手巻き寿司とから揚げを家族の誕生日に作りました。また、友達の誕生日に日本のお弁当を作りました。おいしい！と言って幸せそうに食べてくれました。時間はかかったけれど、やってよかったと心から思いました。まず、自分自身が日本についての知識をもたなければいけないと思いました。日本について知り、誇りをもつことで、相手に日本の良さを知ってもらえることができるのです。

カナダで差別されたことは一度もありませんでした。日本とカナダでは、移民の数が違います。多民族国家であるカナダには、さまざまな国から来た人々が一緒に生活しています。だから他国の人間に寛容なのだと感じました。

当たり前ですが、カナダと日本の気候は全く異なります。Hamiota の冬はとても寒く、寒いときは -50 度でした。-48 度になると、休校になります。実際に 2 回ほど、休校になりました。初めてその寒さを体感したときは、寒すぎて息をするのが難しかったのを覚えています。雪が降ると見えるダイヤモンドダストはとても美しく、私をワクワクさせました。夏は 30 度ほどでもとても過ごしやすかったです。友達みんなで外に出て、夜遅くまでボンファイアーをしたり、泳ぎに行ったり、外でパーティーをしたりと楽しいイベントがたくさんありました。

## 【日本人の存在】

同じ学校に JFIE の日本人の留学生がいました。彼女とは、一緒にカナダの到着し、同じ学年に入りました。彼女のホストマザーは私のホストファザーの姉ということもあり、私たちはたくさんの時間を一緒に過ごしました。私は初め、私のほかに日本人がいることがすごく嫌でした。自分がつらくなった時に日本語に甘えてしまわないかと不安に思ったからです。しかし、その心配はいりませんでした。彼女にも、日本語を話さないようにしたいという強い意志があったからです。私たちは、日本語を話さないようにしようと決めお互い頑張りました。私たちはお互いに高めあえる仲間になれました。また、私達はそれぞれ違う個性を出し、周りのみんなもそれぞれの良いところを見てくれました。彼女は私の一生の親友、高めあえる仲間になりました。

留学して出会えた家族、友達とかけがえのない時間を過ごしたこの1年間は、私にとって特別であり、一生忘れることはないでしょう。この先、この留学で得たものを生かし、グローバルな視点をもった大人になり、社会に貢献したいと思います。また、与えてもらったたくさんの愛情や優しさをほかの人に返していきます。このような素晴らしい経験をさせてくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

